



『Give&take 「与える人」こそ成功する時代』

アダム・グラント／楠木建監訳 三笠書房

本 館

請求記号：J/361.3/G77

資料ID：701614679

法学部教授 遠山 聡

私自身、どちらかといえはこういった啓蒙書は苦手なのですが、読んでみて腑に落ちることが多くあったので紹介します。GIVE&TAKEは、要するに「情けは人のためならず」ということであり、成功したければギバー（Giver）つまり「与える人」になれというものです。テイカー（Taker）やマッチャー（Matcher）が成功しないというわけではなくて、ギバーがより大きな成功を掴むということでしょう。いかに与えるものを少なくして大きなリターンを獲得するかを常に考えているような、自己中心的なテイカーやフリーライダーが「賢い」といわれるとモヤモヤするので、テイカーを勧めないのはわかるとして、与えることと受け取ることのバランスを図るマッチャーでもなく、なぜギバーなのでしょう。世の中にはいろんな人がいます。テイカーもたくさんいるでしょう。ギブが自己犠牲や搾取となってしまうと、ギバーは疲弊してしまいます。そういう人とはどのように付き合えばいいのでしょうか。また、ギバーになろうといざ実践しようとしても、必ずしも簡単ではありません。成功するために「与える」ということ自体、テイカーの発想だからです。著者は様々な具体例を挙げて実証的にいろんな「答え」を与えてくれています。自分はどう生きるべきか、他人とどう向き合うべきか、そんなことに悩んだときに一つの示唆を与えてくれる、そんな一冊です。